

Mio Matsuda's New Album "La Selva"

## 松田美緒 『ラ・セルヴァ』

2021.10.23 on sale

Ultimate High Quality CD  
SR-M0001/ 定価:¥3,000(本体)+税  
光の密林にあそぶ歌声



### 南米のレジェンド、ウーゴ・ファトルーソのプロデュースによる最新作

2005年にブラジルで大西洋をテーマに制作した破格のスケールのデビュー作『アトランティカ』（ピクチャー）以来、時空を超えて地球上の様々な歌を歌い続けてきた松田美緒。のちにTVのドキュメンタリー番組にもなったCDブック『クレオール・ニッポン うたの記憶を旅する』（アルテスパブリッシング）で、日本内外の知られざる歌を蘇らせるなど、その活動は止まるところを知らない。

その松田が今回10年ぶりにタッグを組んだのは、2019年度ラテングラミーの〈生涯功労賞〉を受賞したウルグアイの巨匠ウーゴ・ファトルーソ。二人は2008年ごろから音楽制作を共にし、ウーゴは「美緒はこれまで共演した中で間違いなく世界一の歌手」とその歌声を絶賛する。

世代や国境を越えてお互いにリスペクトし合う音楽家同士がリモートを駆使して作り上げ、ウルグアイ音楽の多彩な魅力とどこかマジカルな空気感に満ち、久々の南米モノで歌い手としての本領を発揮した。(LATINA誌評)

ウーゴのオリジナル曲に加え、ウルグアイのカンドンベ、アルゼンチンのタンゴなど魅力あふれる曲で構成された新作『ラ・セルヴァ』は躍動感と多幸感に満ちた作品に仕上がった。シンセサイザーを駆使し、遊び心たっぷりに創り上げられた音楽は、宇宙空間に人知れず広がる想像の密林のよう。そのなかに遊ぶ歌声はリモートで制作したとは思えないほど自然に溶け合い、自由に花開く。

ウーゴのパートナーのアルバナ・バロッカスが息のあったドラム、パーカッションで世界観を広げる。ゲストミュージシャンにウルグアイの才能あるギタリストのニコラス・イバルブルが参加し、日本人ギタリストの渥美幸裕も遠隔でセッション (M5)。ウーゴの長男でベーシストのフランシスコ・ファトルーソが参加し、親子で戯れるようなファンキーなアウトローを演奏 (M6)。そして、ウルグアイの打楽器音楽カンドンベのグループ Cuareim 1080(クアレイン ディエス・オチェンタ)がその雄大な響きを聴かせている(M11)。

### 密林、その光 -日本とウルグアイのアートの結晶-

「君は私を待ってくれる密林」

アルバム・タイトルの"La Selva" (ラ・セルヴァ) は、タイトル曲"La Selva - Esa Luz" 「密林、その光」の一節からインスパイアされた。その象徴的な詩とウーゴの生み出すコズミックなサウンドと歌声に触発され、アーティスト Gak Yamada が手がけた「宇宙の密林」作品群をデザインにちりばめ、単なるCDを超えたアート作品として完成。現在、アルバムアート展を開催している。

### Ultimate High Quality CD 究極の音質

日本の誇る技術が詰まった、メモリーテック社のUltimate High Quality CD (UHQCD) でプレス。ハイレゾのような鮮やかな中高域、立体感のある音像で、CD再生時に配信では得ることのできない究極の音質を再現する。

## [収録曲] 全曲対訳付き

- 1. La selva - Esa luz** 密林、その光  
(Ricardo Lacquan - Fernando Torrado Parra)  
#密林の希望を謳うボレロ・ロック。
- 2. Destinos cruzados** 交差する運命  
(H Fattoruso)  
#切なげに温かく、過ぎ去った恋を肯定する歌。
- 3. Hurry!**(H Fattoruso) **PV公開中**  
# 1999年NY時代の作品。旋律が光のように揺れるファンタジックな曲。
- 4. La caricia** カリシア(H Fattoruso日本語詩 山田学・松田美緒)  
#ロマンティックで儚げな曲。新たな日本語詩つき
- 5. El viaje de la libélula** トンボの旅路 (H Fattoruso)  
# 2020年に書き下ろした唯一のギター曲。トンボが世界中を旅する。
- 6. El desperdido II** 迷い飽きて  
(Laura Canoura - Andrés Bedó - H Fattoruso)  
#人気歌手ラウラ・カノーラ作詞のユーモラスな「ミロンガ」。
- 7. Cualquier cosa** たわいもないもの  
(Juan Velich - Herminia Velich)  
#カルロス・ガルデルの歌ったタンゴの名曲のロックアレンジ。
- 8. Esa tristeza** その悲しみ (Eduardo Mateo)  
#ウルグアイの天才エドゥアルド・マテオ作の浮遊感ある曲。
- 9. El día que me quieras** 想いのとどく日  
(Carlos Gardel - Alfredo Le Pera)  
#ガルデルの名曲がうっとりするような七拍子アレンジ。
- 10. Pal' que se va** 都会に出て行く君に  
(Alfredo Zitarrosa)  
#ウルグアイのアルフレッド・シタローサの曲。リズムは「チャマリータ」
- 11. Palo y Tamboril** スティックとタンボリン  
(Georges Roos - Manolo Guardia)  
#ウルグアイ真髓が詰まった太鼓音楽カンドンベの曲。

## [Credits]

松田美緒(vo) ウーゴ・ファトルーソ(key)  
アルバナ・バロッカス(drms, per)  
フランシスコ・ファトルーソ (b) ニコラス・イバルブル(g) 渥美幸裕(g)他  
ボーカル録音:森崇 (studio BOSCO)  
ミックス: Gerardo Alonzo  
マスタリング: 小島康太郎 (FLAIR Mastering@VICTOR)  
アルバムアート: Gak Yamada  
デザイン: 後藤英人(Studio Tooza)



La Selva アルバム特設サイト [www.laselva.miomatsuda.com](http://www.laselva.miomatsuda.com)  
オフィシャルストア <https://miomatsudaofficial.stores.jp>

Hurry! ミュージックビデオ

<https://www.youtube.com/watch?v=Dc70ATN4ZZY>

## Profile



### 松田 美緒

Mio Matsuda

懐に飛び込み、見出し、地球上の様々な土地の魂を伝える「歌う旅人」。18歳でポルトガルのファドに自己表現の形を見出し、20代で本場リスボンに留学したことをきっかけに、活動拠点にも音楽のジャンルにも縛られることのない、世界各地を旅する音楽活動が続ける。ポルトガル語やスペイン語など六ヶ国語を操りながら、各地で息づくリズムを吸収し、地域の魂が宿った歌を拾い上げ、それを独自の表現にしていく活動は「歌う旅人」と称され、国内外の著名ミュージシャンからも支持されている。

リオデジャネイロ録音の1stアルバム「アトランティカ」で2005年ビクターよりデビュー。2010年にはウーゴ・ファトルーソとアルバム制作、南米ツアーを重ねる。2012年からは海外移民に歌い継がれた曲も含め、知られざる日本の歌を掘り起こし、2014年にCDブック『クレオール・ニッポン うたの記憶を旅する』を発表。高い反響を呼び、文藝春秋『日本を代表する女性120人』に選ばれる。日本テレビ系列『NNNドキュメント』でその活動を追った番組2作が放映。2019年には大分県の歌を掘り起こした

『おおいたのうた』とブラジル移民の歌『月の夜のコロニア』を発表。国内外それぞれの土地に残された歌を蘇らせることで、刻まれた人の想いを解き放つ活動も続けながら、新たな接点を生み出す旅を続けていく。

Photo by Tomoaki Akasaka  
[www.miomatsuda.com](http://www.miomatsuda.com)

### ウーゴ・ファトルーソ Hugo Fattoruso

1943年ウルグアイ・モンテビデオ生まれ。全方位に渡ってラテン音楽を牽引し続ける作曲家、編曲家、ピアニスト。64年にロックバンドの「ロス・シェーカーズ」を結成、南米のビートルズと称され、一世を風靡。69年NY移住、アイルト・モレイラとともに、伝説的バンド「OPA」を結成。自身のルーツであるウルグアイのリズム、カンドンベとロック、ジャズ、ファンクや多彩な南米のリズムを融合させたOPAは、現在も世界中のミュージシャンに影響を与えている。80年代はブラジルで、ミルトン・ナシメントやシコ・ブアルキ、ジャヴァンなど主要なアーティストのアレンジャー、プレイヤーとして、ブラジル音楽を支える存在として活躍。90年代に、息子のフランシスコそして弟のオズヴァルドとトリオ・ファトルーソを結成。2001年からは日本人パーカッションのヤヒロトモヒロとDOS ORIENTALESとして毎年の来日を果たし、松田美緒とも2作のアルバムを制作、共に南米ツアーを行った。現在、ウルグアイでアルバム・パロカスとのHA DUOやカンドンベグループのCUARTETO BARRIO SURなどと精力的にツアーを行っている。



—松田美緒とウーゴ・ファトルーソの活動—

2010年『クレオールの花』

国際交流基金主催南米ツアー「TRANS-CRIOLLA」  
ウルグアイ、アルゼンチン、チリ、東京・白寿ホールで公演

2011年ウルグアイ録音『コンパス・デル・スル』

2012年ウルグアイ国立ソリス劇場で公演

エドゥアルド・マテオのドキュメンタリー映画

「Amigo Lindo del Alma」に出演（2019年公開）

ポルトガル歌謡・ファドなどを学び、国内外の音楽を歌ってきたシンガー、松田美緒。写真が、新作「ラ・セルヴァ」を出したウルグアイ出身のペテラン・ウーゴ・ファトルーンとともに、リモートで制作したアルバム「パンテミック」で世界と離れてしまったようだが、制作はとも近くに感じながらできた」と松田。

松田美緒 リモートで新作



ウーゴはかつて「セルヴァ」を制作した。それから約10年、世界はコロナ禍に見舞われ、多くの命が失われ、人々は夢をなくし、先行きは不透明。改めて音楽と向き合った時、自

世界照らす「光」信じて

然と「ウーゴと本質的な音楽がやりたい」と思った。配信ライブのために楽曲を依頼すると、すくなく、今作に収録した「トンボの旅路」を書き下ろしてくれた。「ロマンがある」と、希望にあふれた曲。もう一度アルバムがやりたいなってお願ひする、と、どんと入った。この曲は、うーゴとペテランが、松田はスペイン語を使い、自在に歌う。「Hurricane」は、1999年のウーゴの楽曲。近未来的なサウンドに、郷愁をかきたてるボーカルを響かせる。ゆたかりとした「密林その光」では、「ほら、君を照らす光があるだろう、このすべての狂気のせいで」。

中に「日本語訳と優しく歌う。「照らす光」があるはず」世界を旅し、各地の音楽のリズムや考え方を、言語を学び、2005年にメジャーデビュー。ウーゴとの出会いに大きな刺激を受けた。自身のルーツを大切にすると日本について知らなくなった。「日本の民謡や地域に根ざす音楽を歌う近年の活動につながる。ウーゴとのコンサート開催を願う。「歌は人と人をつなぐ。歌うだけでつながるんです」。

京在住 6カ国語習得の「歌う旅人」  
松田美緒、ウルグアイ音楽の新譜

6カ国語を習得し、国境や民族の壁を越えた「歌う旅人」として活動する歌手の松田美緒（41）＝京都市上京区＝が、新譜「ラ・セルヴァ」（スペイン語で密林の意）＝写真＝を発表した。南米ウルグアイのさまざまな民族音楽を大胆に編曲した全曲スペイン語の意歌作。コロナ禍で初のリモート録音に挑んだ松田は「伝統曲と感ぜないほどポップでファンキーに仕上がった」と手応えを感じている。

ラテン音楽をけん引するウルグアイ在住の巨匠ウーゴ・ファトルーン（78）と10年ぶりにタッグを組んだ。

コロナ禍で活動自粛を余儀なくされた松田が昨年始めた配信ライブで、ウーゴに新曲を依頼したのがきっかけになった。松田のさらなる要望に応える形で、キーボード演奏や歌声などを通じて「音信、のやりとりを半年以上続け、ウーゴがオリジナル作品を含めた11曲を選んでアレンジした。

収録曲は、配信ライブで披露したギター曲「トンボの旅路」や、ウルグアイの黒人から生まれた太鼓音楽カンドンブ、タンゴの名曲をロック風にした「た

も感じてほしい」と期待する。立命館大在学中にポルトガル民謡「ファド」と出会い、2005年デビュー。欧州や南米、大西洋諸島など各地に滞在し、古きよとの交流を通じて吸収したリズムや魂を生かした作品を歌い続ける。

「中学時代、日本に住むイタリア人の友達をつくり、母国語を教えてもらった。その後も外国語習得の先生は、ギリシャ人やブラジル人の友達。相手の懐に飛び込み、表情やしぐさ、息づかいを感じないと本質は学べない。伝統的な文化も語学と同じだと思う」



「中学時代、日本に住むイタリア人の友達をつくり、母国語を教えてもらった。その後も外国語習得の先生は、ギリシャ人やブラジル人の友達。相手の懐に飛び込み、表情やしぐさ、息づかいを感じないと本質は学べない。伝統的な文化も語学と同じだと思う」

新譜「ラ・セルヴァ」は税込み3300円。松田美緒特設サイト <http://laselva.miomatsuda.com>

発売記念ライブは11月20日午後7時、上京区のライブハウス「SOCCO（ソッコ）」ギター一週美幸裕。前売り3000円。SOCCO・075（285）4385。一敬称略（斎藤英之）

[メディア情報]

京都新聞(11/3) 読売新聞 (11/19 夕刊)

Savvy(10/22) ミュージックマガジン11月号 CDジャーナル

intoxicate [MIKIKI](#) [E-MAGAZINE Latina](#), [JAZZ TOKYO](#)

ラジオ (リンク先のアーカイブでお聴きいただけます)

[J-Wave](#) 「葉加瀬太郎のANA World Air Current」

[JJAZZ.Net](#) 「夜ジャズ.Net」 [FM福岡](#) 「深町健二郎のオトナマチアソビ」

RKB福岡毎日放送「ガメニチューズ」 FM東京「トランスワールドミュージックウェイズ」 「OTTAVA andante」 FMヨコハマ FM京都「One Fine Day」

NHK-FM 「音楽遊覧飛行」 FM長崎など

SAVVY 12月号

ライター 吉本の  
ウーゴ・ファトルーン  
講座

vol.40

松田美緒&ウーゴ・ファトルーン

日本 & ウルグアイ

ウルグアイ音楽の粋が詰まったコラボ作

文 / 吉本秀純



南米のウルグアイはブラジルとアルゼンチンの間に位置し、人口約336万人の小さな国ですが、大国に挟まれながら独自のカルチャーを育ててきた注目すべき国。音楽では、カンドンベと呼ばれる3種類の太鼓(タンボール)を中心に奏でられるグルーヴィーなリズムが最も特徴的で、そこにサイケ・フォーク、ジャズ、ファンク、シンセ・ポップなどの多彩な要素をブレンドした才能豊かな音楽家の宝庫としても知られています。今回に紹介するウーゴ・ファトルーンは、60年代に「南米のビートルズ」とも称されたロス・シェイカースを率いて活躍し、70年代に入ると伝説的なフュージョン・グループのOPAを結成して世界に進出、その後ソロとして精力的な活動を続けてきたウルグアイを代表する巨匠キーボード奏者。そんな彼が「これまでに共演してきた中で間違いなく世界一の歌手」と称賛するシンガーの松田美緒と、パンテミックの中で音源をやりとりして完成させたのが、10年以上ぶりのコラボ作となった「ラ・セルヴァ」です。

2010年に「クレオールの花」コ

ンパス・デル・スル」という2枚のアルバムを制作し、一緒に南米ツアーも行った両者ですが、今作でまず特徴的なのがウーゴはあえてピアノを一切使わず、彼独特のレトロ・フューチャーな音色のキーボード類を重ね合わせた音作りでカラフルな内宇宙的サウンドを展開していること。レパートリーもウーゴが書き下ろした新曲や過去の名曲に、タンゴの名歌手カルロス・ガルデルで知られる楽曲、鬼才エドゥアルド・マテオをはじめとする同郷の才人たちが残した名曲のカバーなど。新旧のウルグアイ音楽の良質な部分やルーツが巧みに凝縮されたものとなっていて、キャリアを経て表現力と深みが増した松田のボーカルがそれらを見事に歌いこなしています。

近年は日本国内の知られざる歌に目を向けたアルバムが続いていた松田にとっても、音楽的に信頼するパートナーを得てのびやかに本領を発揮した作品に。彼女は11月19日(金)に京町堀の[Chove Chuva]で今作に1曲参加したギタリストの温美幸裕とライブを行います。

「La Selva」

\*ダミー 発売中 3,300円



松田美緒 『ラ・セルヴァ』 発売記念イベント – Gak Yamadaアルバムアート展

個展開催期間 11/20-12/26

12月10日 (金) 「クアトロMライブ」

松田美緒(ヴォーカル) MIKA (ピアノ)

NY在住サンバジャズピアニストMIKAとのブラジル音楽100%デュオ。

12月17日 (金) 「宇宙の密林 Poetry night」

松田美緒 with 川瀬慈 (人類学者) 前林明次 (サウンドアーティスト)

鶴来正基 (ピアノ) 渡辺亮 (パーカッション)

本物の密林の音に包まれて、人類学者・川瀬慈と語らい、世界を旅する音楽の夕べ。

18:30 開場19:00 開演

予約¥3000 当日¥3500 チャージ+ワンオーダー

会場 SOCO (ソコ) 京都市上京区河原町通丸太町上る出水町260

ご予約・お問い合わせ 075-285-4385 / 070-6548-8399 Instagram /FB socokyoto

La Selva

松田美緒

『ラ・セルヴァ』 発売記念ライブ

Gak Yamada

アルバムアート展

2021.11.20 sat-12.26 sun

- Live 11.20 & 12.17 -

Mio Matsuda

live performance

Gak Yamada Art Exhibition

at socio kyoto



パンデミックの最中に南米音楽のレジェンド、ウーゴ・ファトルーソの遠隔プロデュースで生まれた松田美緒の最新アルバム『ラ・セルヴァ (密林)』のリリース記念イベントを開催しています。Gak Yamadaによる宇宙の密林をテーマにしたアルバムアート展も開催。音楽とアートが一体になって、違う「ソコ」へ連れて行きます。